

LEADERSHIP CHALLENGE

大隈塾 LC レポート vol.01

大隈塾リーダーシップ・チャレンジは4月16日（土）17日（日）、2016年度第1回の講義を開催いたしました。

初日は塾頭の田原総一郎、顧問の駒井正義、コンディショニングトレーナーの有吉与志恵さん。そして2日目はライフネット生命保険の出口治明さんでした。

4月16日（土）

13:00～13:30 オリエンテーション（大隈塾の説明）

13:30～14:30 第1回講義

講師：田原総一郎（塾頭）

テーマ：「大隈塾とはなにか」

14:40～16:10 第2回講義

講師：駒井正義（顧問、三井物産前副社長）

テーマ：仕事で一皮むけた瞬間「会社の中でどう楽しく、面白く生きるか」

16:20～17:20 特別講義

講師：有吉与志恵さん（コンディショニング・トレーナー）

テーマ：「仕事に効く身体の整え方・コンディショニング」

4月17日（日）

09:00～10:30 第3回講義

講師：出口治明氏（ライフネット生命保険代表取締役会長兼 CEO）

テーマ：歴史を学ぶ「先人に学べ、そして歴史を自分の武器にせよ」

10:40～12:00 グループディスカッション

今年度は初回からみなさん闘志みなぎり、質疑応答は活発。ファシリテーター役の田原総一郎が促さなくても積極的に挙手・発言が相次ぎました。2回目の講義では駒井顧問がやる気十

分、「質問は懇親会かねて別途時間を設けるからそこで」と、90分すべて自分の体験的リーダーシップのプレゼンテーションに費やしました。

2日目の出口治明さんの講義でも果敢に質疑応答で出口さんに挑んでいきました。大隈塾3年目の今年度もまさに「リーダーシップ・チャレンジ」となりそうです。

【第1回講義】

講師：田原総一郎

テーマ：「大隈塾とは何か」

・近江商人は嫌いだったが30代で見直した。近江商人には客・世間・自身を幸せにする「三方よし」の考え方と、馬鹿になって根気よく物事を進めれば運が来るという「運・鈍・根」の考え方がある。

・松下幸之助氏は部下を抜擢する時、頭脳と健康と誠実さは関係なく、運が良い人を選んだ。運が良い人は、困難な状況でそれを面白がって前向きに取り組む人である。

・優れた経営者や政治家は人の話を聞くのが上手い。聞き上手とはこちらがどんどん話をしたくなるように仕向けることである。

・京セラ創業者の稲盛和夫氏は「世の中に失敗はない。失敗しても挑戦する。挑戦を諦めた時初めての失敗という」と言った。碍子会社から独立し、京セラを立ち上げたが全く売れない。アメリカへ飛ぶこと3度目にしてやっと取引先を獲得し、少し売れるようになる。アメリカ製品に京セラが使われている事で日本国内の認知度が上がった。松下電器を皮切りに様々な企業が使用開始。日本でも世界でもシェアを一気に拡大した。

・セブンイレブンを育てた鈴木敏文氏は徹底的に客の目線に立った。彼は「自分が飽きたら、客が飽きた時だ」との思いで毎日昼食にセブンイレブンのコンビニ弁当を食べる。

・ローソン前社長の新浪剛史氏はローソンの全国CMはいらないと考えた。新規顧客獲得より、リピーター獲得が勝負。そのためには従業員に頑張ってもらいたい、現代それを言い過ぎるとブラック企業と思われかねない。自発的に頑張ってもらうには三菱商事のように会社に所属していることへの誇りを持ってもらえば良いと考えた。そのために何か1つ日本一を作り、社員のモチベーションを上げることに注力した。

【受講生のレポートより】

田原さんだからこそその世界観、リーダー論の話を伺い、非常に勉強になりました。さまざまな経営者、政治家と対談し、深い洞察からの鋭いご指摘は、他では学べない貴重な時間となりました。

説明を聞き、非常に納得しました。

確かに運があると言われる人は、その場その場を楽しんで行動している傾向があり、前向きに仕事に取り組んでいる結果、成功に結びついている事が多いと感じます。

今の部下の中には、すぐに強迫観念に駆られてしまい生産性が落ちてしまう性格や、被害者意識を強く持った結果、悲観的になってしまう性格の者がいます。今後、上記のような話を聞かせて人財として育成していきます。

【第2回講義】

講師：駒井正義

テーマ：「会社の中でどう楽しく、面白く生きるか」

・イキイキする条件は4つある。1つ目は「心身ともに健康であること」。歩いていて思わず小走りしたくなるような気分や、美味しい物や美しい物に心の底から感動出来る心持が大事である。2つ目は「言いたいことを言い、やりたいことをやれるか」。そのためには、正しく且つ実績を残せているかが必要条件である。3つ目は「やっていることに自己実現の認識があるか」。4つ目は「周囲の人に認めてもらっているか」。これは同期同業者には一目置かれ、部下に慕われ尊敬される、上司に信頼され、褒められることである。なお、仕事におけるイキイキのパロメーターは「週末より月曜日が楽しいか否か」である。

・私が最も輝いていた時代は27歳から37歳までの国内営業の時期である。「流通に革命を起こしたい」との思いで、誰よりも仕事をし、誰よりも稼ぎ、誰よりも創造的な仕事を出来ていたとの自負があった。意識していたのは、日本経済や業界、市況に関して誰よりも勉強すること。相手が喜ぶ情報を与え、話を引き出し（5与えて7～8取る）、誰よりも有用な情報を入手すること、カネとヒトを注ぐポイントを捉えた、儲けるための構造分析を怠らないこと、の3点である。また、営業のポイントは付き合う相手に「楽しい」と思わせられるか否かである。

・取引先の再建を果たしたことが認められ、関西支社の鉄鋼部長に栄転した。同期ではトップの部長である。気分も上向きで乗り込んだところ、当時の大阪は世界一景気が悪いとも言える状況で、企業倒産も日常茶飯事であった。気持ちも体も限界で会社を辞めたいと思い、妻に相談したところ「辞めれば」と言うので逆に吹っ切れた。辞めていいと思って、正しいこと（正論）を言い続けた。その結果、3年間で支社の部門の最下位からトップになった。

・この成果の要因は、部長が一番働いたことだろう。危機感を全員に共有し、方針を全員に共有と共鳴した。徹底して明るくする事で活性化を図った。信賞必罰を徹底した事でやる気のある人が更に伸びた。徹底して合理化、少数化し、精鋭化した。以上5点であるが、最も大きな

要因は、私心がなかったことである。

・最後に伝えたいのは「大きな組織に入ったら絶対に偉くなれ」ということ。人と組織を動かせるし、自分の価値基準を会社の価値基準にすることが出来る。偉くなるには勉強量が必要。ポストと勉強量は比例する。また、修羅場は経験するべきで、「チャンスだ」くらいに思った方が良い。そして人は必ず見ている。悪いことも見られている。そして、スランプではジタバタせず、じっと勉強すべきだ。

・良いリーダーになるには、コミュニケーションの輪を作り、巻き起こせる能力、聞く力、メッセージを打ち出す言葉力を磨くべき。それも要するに勉強である。また、良いリーダーは良い教育者。教育は愛情であり、愛情を注ぐことは時間がかかる。自分の時間を惜しまない自己犠牲でもある。

【受講生のレポートより】

まず駒井さんの第一声「何故社長になれなかったのか？」

はっきり言って自分は「三井物産の副社長になっただけでも十分でしょ！」と行ってしまいました。しかし講義を聞いて「自分はなんて小さい人間なんだ！」と感じ、また会社人生を一つの物語として熱く語れることを非常に羨ましく思いました。そして、この年代で、このタイミングで駒井さんの講義を聞くことができ、自分の中では奮い立つ気持ちが芽生えたのは確かです。

=====

私の部署の部長が毎日のように繰り返し言い続けていることが「前向き思考・前向き発言・前向き行動」ですが、駒井さんの話にはこれと重なる点が終始見られ、自分の上司と重ねながら話を聞くことが出来ました。

部署を明るくするという事は、言うのは簡単でやるのはとても難しいことですが、これからは常に意識して仕事に取り組みたいと思います。

=====

勉強は、変化（チャンス）に対応するために必要だというお話、勉強が必要な量はポストと比例するというお話は、非常に納得感があった。講師の方が総じて勉強の必要性を語られていることもあり、非常に単純だが、本当に勉強をしなくてはという思いを抱いた。

【特別講義】

講師：有吉与志恵さん

テーマ：「仕事に効く身体の整え方・コンディショニング」

・私も大隈塾の受講生だった（2006年度）。リーダーたちの姿勢に対する考えを聞けると思ったので、大隈塾を受講した。そこでわかったのは、優れたリーダーは健康に気を使っている。また、「自分の体を支えられずに、会社を支えられるか？」との問いかけを行ったりした。「体を鍛える」よりも「体を整える」をテーマにしている。リーダーには姿勢と目力が必要である。

・肩こりや首こり、二日酔い等の不調の積み重ねは仕事の生産性を落とす。今、治せば大丈夫なのに放っておくと手術が必要になる。「ジム、水泳に行っているから肩こりくらい大丈夫」でも突然死の危険性がある。「歳だから仕方ない」とかはない。

・すべての不調の入り口は生活習慣である。

・「鍛える」ではなく「整える」のがコンディショニング。リセットコンディショニング（筋肉の弾力を取り戻し、骨配列を整える）とアクティブコンディショニング（筋肉を再教育し、姿勢の再現性と動作を改善する方法）の融合である。「筋肉に弾力がある」「姿勢が美しい」「呼吸が正しく行われている」が良いコンディショニングの条件である。

・日本人と欧米人の筋肉は反応が違う。日本人は背もたれが必要ない骨格と筋肉をしている。

・筋肉をコントロールできる人は頭が良い、と書く本もあるほどである。

・整形外科に行っている人の9割はコンディショニングで完治する。

【受講生のレポートより】

一番身近にある自分の身体のこと・・・はっきり言って無知だったことを思い知らされました。筋肉って硬いものだと思っていました。過去に腹筋を割ろうと思ってがむしゃらに腹筋運動をしていたことがありました。間違いだらけですよ・・・身体の構造を知る、正しい知識を得ることが身体を好調にキープする近道であることがよく分かりました。

=====

女性のキャリアという観点では、妊娠・出産・子育てといったライフイベントがフォーカスされているが、日本の管理職層女性の不妊治療者が急増している現実等々を踏まえると、心身の健康を自らマネジメントすることは知識・経験と同じくらい、ますます重要になるはずだろうと強く感じている。女性より体力の勝る男性と同じような働き方を続けて体調を崩し、結果的に仕事の生産性を落とす女性がいる例は、日本人が大リーガーと同じトレーニングをしたことで成績が出なくなった野球選手の例と同様である。

【第3回講義】

講師：出口治明さん

テーマ：「先人に学べ、そして歴史を自分の武器にせよ」

・昔の人はどうしたかという縦軸（時間軸・歴史軸）と世界を比較する横軸（空間軸・世界軸）の中で考えると自らの立ち位置や現象が見えてくる。もう1つは数字やファクトからロジックを組み立てることが必須。

・歴史は民族の数だけあり、見方によって沢山あると考える人は多い。これは日本だけであり、歴史は1つしかない。1つの事実に近付こうとするのが歴史。また、日本史はない。世界は全部繋がっており、世界という大きな枠組みの中の地域史として日本史がある。勿論、西洋史と東洋史に分けるのも同様である。

・ビスマルクは「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」と言った。将来何が起こるかわからないが、何か起こった時には過去が教材になる。人間の経験は長く生きた人でも、たかが数十年であり、歴史を学ぶとそれ以上の蓄積が出来る。即ち時間軸の限界を知っている人は賢者と言える。

・太宗李世民は上の立場になったら鏡を見て、楽しそうにしているか確認せよと言っている。また、上の立場に必要なのは三鏡。つまり、本当の鏡と歴史と自分に如何なる事でも直言してくれる人である。

・外国の人と議論している時、世界史を学んでいると相手の発想がわかる。

・言語化する事は机の整理と一緒である。知りたい時が学び時、プロに聞いて、部下に喋ると勉強になる。

・人生は「天の時、地の利、人の輪」である。

・天の時を上手く活用するためにはどうすればいいか。準備を怠らないことだ。凧揚げを例に取ると、風が吹いたときに凧をあげられるように準備をしておくことが大事。

【受講生のレポートより】

「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」というビスマルクの言葉では自分自身愚者であると思うので賢者になるべく歴史を学ばなければならない。

歴史から自分が経験しないことも学ぶことができ、将来、大変なことが起こった時の参考になるのは過去であるとのことばは印象深く、ビジネス書よりも歴史から学ぶということの重要性を感じた。

やはりもっともっとたくさん本を読んで勉強しなければならない。そして人間性を高めていかなければならない。

=====

最近「アナロジー思考」という本を読んだ。この本は、過去の事例をうまく借りてくることで新しいアイデアを生み出すことができることを説く本だが、このアナロジーをするためのストックを増やすという観点から考えてみても、歴史を学ぶ重要性は大きいと考えられる。

講義後、塩野七生著『ローマ人の物語』を読み始めてみた。読んでみると気づきも多く面白く、今は脱線して古代ギリシアのポリスに関する本を幾つか読んでいる。寝る前必ず1時間読書、とまではいかないかもしれないが、少しずつ歴史を勉強していきたい。

=====

次々に投げかけられる質問にも、打てば響く言葉どおり、的確に答えられていて、これまで読書等で培ってこられた知識の幅広さや深さを実感した。

駒井さんとの共通点は、社会人はとにかく勉強せよということだった。時間がないことをついついいいわけにしてきたが、あらためて初心に戻ることができた。おすすめの本も是非読んでみたい。

=====

とても印象的だったのは、歴史の世界にチャレンジできるとした場合、どの時代にチャレンジしたいかと質問をしたときに、「フビライに仕えてみたい」とおっしゃっていたことです。フビライの元で学んでみたいとの意図だと思うのですが、優れた王と勝負する（自身の能力を試す）のではなく、優れた王から学びたいというお考えには、これほど知識を身に着けられているのに、まだ学ぼうとされるのかと驚きました。

田原さん・駒井さんも総じて勉強の必要性をお話しされていましたが、勉強をする人の真の姿を出口さんに見た気がしています。

大隈塾リーダーシップ・チャレンジレポート vol.01

2016年5月4日発行（通算22号）

大隈塾事務局（一般社団法人ストーンスープ）

村田信之 mura@ta2.so-net.ne.jp

169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-9-19 アーバンヒルズ早稲田 207

tel:050-3558-7527 mail:ookuma_school@stonesoup.tokyo